

入試情報

入 試 日	願 書 提 出	合 格 発 表	内 申 点 計 算 方 法
■学力検査: 3/8(火)~9(水)	2/24(水) ~26(金)	3/16(水)	2学年の評定+3学年の評定×2+特別活動 (1~3学期の合計÷3) (1・2学期の合計÷2) (15点) (45点+45点×2+15点=150満点)

教育のプロ
トライさん



傾向

学力検査は国、数、英、理、社の5教科で、各教科の配点はそれぞれ40点、合計200点満点である。一般入試選抜にあたっては、調査書評定点と学力検査の成績を同等に扱い判定する。ただし、調査書評定点又は学力検査の成績のどちらかが募集定員の上位10%以内に入る場合は、一方の成績により判定する。学力検査では、各科目とも基礎力を試す問題と応用力を試す問題がバランスよく出題され、記述問題が多いことが特徴である。文章や資料を読み取る力、情報やデータを分析する力、表現する力が試される。

科目別対策

英 語

リスニング、対話文読解、長文読解、条件英作文で構成される。対話文読解、長文読解はそれぞれ300字、500字前後のものが2題ずつと量が多いので、速く読む力が必要となる。また、図表から読み取る問題も出題される。英作文は配点の約3割を占め、3種類の設問で出題される。5文以上という条件がある問題もあるので、自分の考えをまとめて英文で書けるように日ごろから練習しておこう。

数 学

大問8題で構成。昨年は30題の小問で出題された。各単元から万遍なく出題される。まず教科書で基礎を固めた上で、標準レベルの問題集を使っていろいろなパターンの問題に取り組もう。特に図形・関数とグラフの融合問題、平面図形や立体図形は十分に対策をしておきたい単元である。また、比を使って求める問題やグラフ作成、作図も頻出なので練習をすること。

国 語

大問5問で構成。現代文は文学的文章と説明的文章の2題出題され、配点の半分を占める。内容理解を中心に、語句や文法に関する知識問題も出題される。古典は仮名遣い、古語の意味、漢文の返り点や漢字の意味などをおさえ、大まかに内容をとらえられるよう対策しよう。また、200字前後の課題作文が毎年出題されているので、過去問を使って作文を書く練習をしておこう。

理 科

大問9問で構成。小問はおよそ40問である。各分野からバランスよく出題される。実験や観察が重視されているので、実験の計画や器具の操作の問題、実験結果を導き出す過程について問う問題、実験データから考察する問題が多い。教科書の用語の暗記や、実験の結果だけの理解では不十分。必ず過程や根拠を理解し、自分の言葉で考察を記述できるように過去問で練習しよう。

社 会

地理・歴史・公民がそれぞれ2題ずつの大問6問の構成と、偏りなく出題されている。語句記入と記号選択で基本知識を問う問題が多いが、記述量の多い記述問題も必ず出題される。3分野とも教科書で基本をおさえることはもちろん、教科書本文の内容だけでなく資料や年表、地図などにもよく目を通す必要がある。また、公民の時事問題対策のため、日頃から社会動向にも目を向けておこう。